

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 雀部 実 君

本会名誉会員、千葉工業大学名誉教授の雀部実氏は、令和4年6月12日逝去されました。享年83歳でした。氏の逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和14年4月に福岡県八幡市（現北九州市）に生まれました。昭和39年に千葉工業大学工学部金属工学科を卒業し、直ちに日本原子力研究所に勤務しました。昭和42年に東京工業大学理工学部助手に就任し、この間に工学博士の学位を取得しました。その後、ドイツのアーヘン工科大学での博士研究員を経て、昭和50年千葉工業大学専任講師に就任し、助教授、教授を経て平成22年に名誉教授に推挙されました。この間、学生教育指導を行い、多くの優秀な研究者や技術者を世に送り出しました。氏は、科学技術教育に歴史を重視することが重要であることを常に力説されていました。その考えは、多くの学生に大きな影響を与えました。

氏は、鉄鋼製錬の高温物理化学および鉄鋼科学技術史に関して深く研究してきました。鉄鋼製錬の高温物理化学の分野では、固体電解質型酸素センサの性能向上とその応用に関する研究、溶融スラグ中の酸素の輸送現象に関する研究、循環性元素中の不純物の精錬除去に関する研究、鋼中非金属介在物の低減に関する研究、都市ごみ焼却炉の灰中からの重金属を除去する研究などを行い、大きな成果を挙げました。特に、溶融スラグ中の酸素の透過速度が鉄イオンをわずかに含むだけで約3桁増大する現象を発見し、これを玉突き現象として解析して、製錬現象の解明に大きく寄与しました。

また、鉄鋼科学技術史の分野では、たたら製鉄技術解明のための基礎、現代製鉄技術の変遷などを研究しました。我国で独自に発展してきたたたら製鉄の技術的解明や、戦後の日本の鉄鋼技術の転換点を探る研究に大きく寄与しました。特に、ふえらむに掲載された平成22年の論文「日本の大量生産鋼の不純物元素精錬限界濃度の時代変遷（2010年版）」は、戦後の日本鉄鋼技術の歴史的発展を技術論的に明瞭に示したものとして評価されています。これらの研究は、3回の俵論文賞と西山記念賞を、平成22年には日本金属学会から学術貢献賞「金属学・金属工業での学術・技術に関する貢献」を受賞されました。さらに、本会研究会では主査あるいは幹事長などで指導され、本会山岡賞を、平成4年、平成7年、平成8年、平成14年、令和3年に受賞されました。

本会においては理事、監事、会報編集委員長、和文誌分科会主査、生産技術部門副部門長、社会鉄鋼工学部会部会長などの指導的役割を務めました。また、本会主催の多くの国際会議の組織委員会委員あるいは委員長を努めました。本会以外では、日本金属学会で評議員と監事、および学振19委員会の副委員長を歴任し、総理府、文部科学省、NEDO、JRCMなどの傘下の委員会においても委員長あるいは主査として指導的役割を果たしました。これらの功績により、平成18年に本会功労賞（野呂賞）「協会における学術・育成活動への貢献」を受賞し、平成22年に名誉会員に推挙されました。

氏の鉄鋼技術における教育分野、学術分野への多大なご業績と、本会の発展になされたご貢献を偲び、会員一同、心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和4年9月

日本鉄鋼協会 会長 古原 忠